

## 医療倫理とヒューマニズム

責任者・コーディネータ	生体防御学分野 大橋 綾子 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬剤学分野、薬剤治療学分野、臨床医化学分野、地域医療薬学分野、生体防御学分野、分子細胞薬理学分野、人間科学科心理学・行動科学分野、外国語学科英語分野、臨床遺伝学科		
対象学年	4	区分・時間数	講義 25.5 時間
期間	通期		
単位数	2 単位		

### ・学修方針（講義概要等）

「医療倫理とヒューマニズム」では、現代医療が直面している倫理的な問題（インフォームドコンセント・告知などの基本的諸概念、移植医療・ターミナルケア等の現状、脳死・安楽死・遺伝子診断等の生命の判定に関わる指針など）をより具体的に理解し、日本の医療の現状に対して自分なりの見解や心構えをもつことを目指す。更に、様々な医療従事者と共に、患者や生活者の気持ちに配慮したチーム医療を実現するために、求められる薬剤師の役割・態度について学習する。また、生命科学の著しい進展と社会の変化にも応じられる薬剤師になるために、先端医療・医薬品販売・医療行政・薬害についても生命・医療倫理の観点から捉え直し、生涯学習の基本となる知識を習得する。得られた知識を基に、課題テーマについて、倫理或いはヒューマニズムの観点から自分の意見を表現する。

### ・教育成果（アウトカム）

医療と医薬品を巡る社会的動向を学ぶことにより、これらに関心を抱き理解する意欲が高まる。また、薬の関わる社会問題について考え、薬の専門家としてとるべき態度を理解できる。

地域医療に貢献する薬剤師や実務家教員の体験を聴くことにより、患者や生活者の安全を守り、信頼される薬剤師となるために必要な心構えが意識できるようになる。また、具体例を通じて行動科学理論を学ぶことにより、薬剤師にふさわしい行動をとるための考え方や手法が身につく。

患者や薬害被害者及びその家族の方々の声を聴くことや、生や死と向き合う人々の医療への期待を学ぶことにより、人権を尊重し人々の多様な価値観を受容できる医療人としての基本姿勢が身につく。

更に、生命の尊さと医療の関わりに関する課題をグループ討議することにより、倫理或いはヒューマニズムの観点から自らの考えを表現するとともに、多様な考えを共有できるようになる。

（ディプロマ・ポリシー：1,5,8,9）

### ・到達目標（SBO）

1. 薬剤師として求められる基本的な資質について説明できる。(62)
2. 医療における薬剤師の使命や倫理について概説できる。(31,32,37)
3. 災害時のこころの反応を理解し、適切な対応を述べるができる。(☆)(45)
4. 喪失と悲嘆の感情を理解し、適切な対応を述べるができる。(☆)
5. 対人援助専門職による多層的な支援活動を理解し、各層での必要なかわりを述べるができる。(☆)
6. 薬の専門家と地域社会の関わりを説明できる。(9)
7. 東日本大震災などで果たした薬剤師の地域社会における役割を説明できる。(☆)

8. 医療人として最期まで尊厳を尊重した人間の生き方に着目し、最適な医療のケアについて意見を述べるができる。(☆)
9. 自分自身や家族が「どのような最期を迎えたいか」、死を迎える心境について意見を述べあうことができる。(☆) (5)
10. 死を迎える患者やその家族に対して配慮すべきことについて意見を述べるができる。(☆) (51)
11. 近代以前の死に関わる社会的時代的問題の概略と問題点を説明できる。(☆) (29)
12. 死に関わる文学的ナラティブの理解が薬剤師としてのナラティブに応用できることを理解することができる。(☆)
13. ラポールを形成し、患者満足度とアドヒアランスを高めるために有効な行動科学理論を説明できる。(☆) (1,8,68)
14. ナラティブメディスンの概念とその背景を概説できる。(☆) (1)
15. 患者の物語を読んで、彼らの感情のプロセスも理解することができる。(☆)
16. 模擬患者の役割と医療における必要性を概説できる。(☆)
17. 模擬患者との対話を通じて薬剤師に求められるコミュニケーションを理解できる。(☆)
18. 誕生に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる。(29)
19. 優生学と遺伝性疾患との関わりを歴史を説明できる。(☆)
20. 患者やその家族の持つ価値観の多様性を認識し、柔軟に対応できる。(34,35,36,51)
21. 医療人が患者の信頼を得ることの重要性を説明できる。(☆)
22. 病気が患者に及ぼす心理的影響を説明できる。(50)
23. 患者やその家族の気持ちに配慮できる。(態度) (34)
24. 医療過誤の現状と背景について説明できる。(19)
25. 医療人に対する市民の期待に目を向ける。(態度) (☆) (4)
26. 医療とその進歩に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる。(33,57)
27. 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度) (37)
28. 医薬品の供給・販売が社会に及ぼす影響に目を向ける。(態度) (13)
29. 医薬品に関わる社会問題と現状を説明できる。(☆) (69,70)
30. 薬害について具体例をあげ、その背景を説明できる。(21)
31. 医薬品の製造や関わる医療行政が社会に及ぼす影響に目を向ける。(態度) (12)
32. 医療倫理やヒューマニズムに関する他者の多様な考えを理解し、共有できる。(☆) (7,34)
33. 生命の尊さと医療の関わりについて討議できる。(態度) (27,28,29,30)
34. 薬剤師に対する社会のニーズを収集し、討議できる。(☆) (71)
35. 薬害の被害者や家族の気持ちに配慮することができる。(22)
36. 薬害に薬剤師としてどのように向きあえるかを討議できる。(☆) (16,18)

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/8	月	2	生体防御学分野 臨床薬剤学分野	大橋 綾子 教授 工藤 賢三 教授	「ガイダンス・薬学教育で重要視される倫理とヒューマニズム」 「医療現場における医療倫理～患者の安全を守る薬剤師の心構え」 1. 薬剤師として求められる基本的な資質について説明できる。 2. 医療における薬剤師の使命や倫理について概説できる。

					<p>事前学修：1年次「薬学入門」の関連講義、「薬剤師として求められる基本的な資質」を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。提示された選択式レポート課題について検討を始める。</p>
4/15	月	2	人間科学科心理学行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>「地域医療とヒューマニズム ～東日本大震災を経験した人々のこころを知る」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害時のこころの反応を理解し、適切な対応を述べるができる。(☆)</li> <li>2. 喪失と悲嘆の感情を理解し、適切な対応を述べるができる。(☆)</li> <li>3. 対人援助専門職による多層的な支援活動を理解し、各層での必要なかわりを述べるができる。(☆)</li> </ol> <p>【双方向授業】</p> <p>事前学修：2年次の「心理学」の「臨床心理学の基礎」及び「医療面接の基礎」で学んだ内容を復習する。</p> <p>事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。</p>
4/16	火	4	生体防御学分野	中田 義仁 非常勤講師	<p>「地域社会における医療倫理 ～東日本大震災とその後の薬剤師の役割」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬の専門家と地域社会の関わりを説明できる。</li> <li>2. 東日本大震災などで果たした薬剤師の地域社会における役割を説明できる。(☆)</li> </ol> <p>【双方向授業】</p> <p>事前学修：災害医療に関するこれまでの関連講義を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。</p>
4/22	月	2	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	<p>「死生観を考える～医療人になる前に～」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療人として最期まで尊厳を尊重した人間の生き方に着目し、最適な医療・ケアについて意見を述べるができる。(☆)</li> <li>2. 自分自身や家族が「どのような最期を迎えたいか」、死を迎える心境について意見を述べるができる。(☆)</li> <li>3. 死を迎える患者やその家族に対して配慮すべきことについて意見を述べるができる。</li> </ol> <p>【グループワーク】</p> <p>事前学修：身近に起きた死の経験と、そのときの心境を思い出してみる。</p>

					事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。
5/8	水	2	生体防御学分野	平林 香織 非常勤講師	<p>「死生学とヒューマニズム ～死と向き合う人々のところを知る」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代以前の死に関わる社会的時代的問題の概略と問題点を説明できる。</li> <li>2. 死に関わる文学的ナラティブの理解が薬剤師としてのナラティブに応用できることを理解することができる。</li> </ol> <p>【その他（シンク&amp;トーク）】</p> <p>事前学修：1年次の「生命倫理学」で学んだ死に関する倫理的問題点について復習する。</p> <p>事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。</p>
5/16	木	3	生体防御学分野	相澤 文恵 非常勤講師	<p>「薬剤師のための行動科学」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ラポールを形成し、患者満足度とアドヒアランスを高めるために有効な行動科学理論を説明できる。（☆）</li> </ol> <p>【双方向授業】</p> <p>事前学修：2年次の「医療における社会・行動科学」、2年次の「医療面接の基礎」で学んだ内容を復習する。</p> <p>事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。</p>
5/29	水	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 講師	<p>「薬剤師のためのナラティブメディスン ～病める人々のところを考える」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ナラティブメディスンの概念とその背景を概説できる。（☆）</li> <li>2. 患者の物語を読んで、彼らの感情のプロセスを理解することができる。</li> </ol> <p>【グループワーク】</p> <p>事前学修：病の概念について調べておく。</p> <p>事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。</p>
6/5	水	2	生体防御学分野	関 安孝 非常勤講師	<p>「薬剤師のためのコミュニケーション～模擬患者とのロールプレイを体験しよう」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模擬患者の役割と医療における必要性を概説できる。（☆）</li> <li>2. 模擬患者との対話を通じて、薬剤師に求められるコミュニケーションとは何かを理解することができる。（態度）（☆）</li> </ol> <p>【グループワーク】</p>

					<p>事前学修：コミュニケーションに関するこれまでの関連講義を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。</p>
6/10	月	2	臨床遺伝学科	山本 佳世乃 講師	<p>「生殖補助医療、出生前診断と遺伝カウンセリング ～過去を学び、人に活かす」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誕生に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる。</li> <li>2. 優生学と遺伝性疾患との関わりの歴史を説明できる。(☆)</li> <li>3. 患者やその家族の持つ価値観の多様性を認識し、柔軟に対応できるように努力することができる。(☆)</li> </ol> <p>【双方向授業】</p> <p>事前学修：1年次「生命倫理学」を復習する。生殖医療の前提となる「ヒトの発生（受精など）」や「遺伝学の基礎」について復習しておく。</p> <p>事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。後日配布される資料（カウンセリングのケーススタディ）を読む。</p>
6/12	水	2	地域医療薬学分野 生体防御学分野	松浦 誠 特任教授 大橋 綾子 教授	<p>「患者の信頼を得るために ～病とともに生きる患者の声を聴く」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療人が患者の信頼を得ることの重要性を説明できる。(☆)</li> <li>2. 病気が患者に及ぼす心理的影響を説明できる。</li> <li>3. 患者やその家族の気持ちに配慮することができる。(態度)</li> </ol> <p>事前学修：「ナラティブメディスン」や「傾聴」について復習しておく。</p> <p>事後学修：感想レポートを書く。</p>
6/17	月	2	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	<p>「医療報道にみる医療人に求められる倫理とヒューマニズム ～医療過誤取材を通じて」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療過誤の現状と背景について説明できる。</li> <li>2. 医療人に対する市民の期待に目を向ける。(態度) (☆)</li> </ol> <p>(講師 読売新聞東京本社 高梨ゆき子編集委員)</p> <p>【双方向授業】</p> <p>事前学修：事前質問について意見をまとめておく。</p> <p>事後学修：感想レポートを書く。</p>

6/24	月	2	臨床医化学分野	那谷 耕司 教授	<p>「先端医療と医療倫理 ～移植医療と再生医療」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療とその進歩に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる。</li> <li>2. 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）</li> </ol> <p>【双方向授業：コメントペーパー】  事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義内容を復習しておく。  事後学修：講義の内容について、レジメおよび確認小テストを参考に振り返る。</p>
8/22	木	1	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>「医薬品と医療倫理～医薬品販売」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の供給・販売が社会に及ぼす影響に目を向ける。（態度）</li> <li>2. 医薬品に関わる社会問題と現状を説明できる。（☆）</li> </ol> <p>【双方向授業：コメントペーパー】  事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義内容を復習しておく。  事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。</p>
8/27	火	3	地域医療薬学分野	高橋 寛 教授	<p>「薬害とヒューマニズム（1）薬害の現状と問題点」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬害について具体例をあげ、その背景や問題点を説明できる。</li> <li>2. 医薬品の製造や関わる医療行政が社会に及ぼす影響に目を向ける。（態度）</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (moodle)】  事前学修：3年次「医薬安全性学」で学んだ薬害について復習しておく。  事後学修：講義資料と確認小テストを復習する。</p>
8/28	水	2	地域医療薬学分野 生体防御学分野	高橋 寛 教授 大橋 綾子 教授	<p>「総括・レポート発表会」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療倫理やヒューマニズムに関する他者の様々な考えを理解し、共有できる。（態度）（☆）</li> <li>2. 生命の尊さと医療の関わりについて討議できる。（態度）（☆）</li> </ol> <p>【プレゼンテーション】  事前学修：これまでの講義を復習する。選択式レポート課題について、自ら選ばなかった課題についても考えを整理しておく。</p>

					事後学修：これまでの講義資料やプロダクトを整理し保存する。
8/28	水	3	地域医療薬学分野 生体防御学分野	高橋 寛 教授 大橋 綾子 教授	「薬害とヒューマニズム（2）薬害被害者の声を聴く」 1. 薬害の被害者や家族の気持ちに配慮することができる。（態度） 【双方向授業】 事前学修：前回学んだ薬害の内容を復習しておく。 事後学修：感想レポートを書く。
8/28	水	4	地域医療薬学分野 分子細胞薬理学分野	高橋 寛 教授 奈良場 博昭 教授	「薬害とヒューマニズム（3）SGD」 1. 薬害に薬剤師としてどのように向きあえるかを討議できる。（☆） 【グループワーク、プレゼンテーション】 事前学修：前回の薬害被害者による講話で感じた事、考えた事を整理しておく。 事後学修：感想レポートを書く。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタンダード薬学シリーズⅡ-1 薬学総論 薬剤師としての基本事項	日本薬学会 編	東京化学同人	2015
参	薬学人のための事例で学ぶ倫理学	有田 悦子、足立 智孝 編	南江堂	2020
参	薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム 改訂版	日本ファーマシューティカル コミュニケーション学会監修	羊土社	2019
参	知っておきたい薬害の教訓— 再発防止を願う被害者からの声	医薬品医療機器レギュラトリー サイエンス財団 編	薬事日報社	2012
参	薬学生のためのヒューマニティ・ コミュニケーション学習	小林 静子、江原 吉博 編	南江堂	2009
推	いのちの砦～「釜石方式に訊け」	芦崎 治 著	朝日新聞出版	2015
推	大学病院の奈落	高梨 ゆき子 著	講談社	2017
推	災害時のこころのケア サイ コロジカル・ファーストエ イド実施の手引き	アメリカ国立子どもトラウマ ティック・ストレスネットワ ーク、アメリカ国立 PTSD セ ンター 著、兵庫県こころの ケアセンター 訳	医学書院	2011

推	基礎から学ぶ！行動科学理論とその技法	日本ファーマシューシューティカルコミュニケーション学会 編集	薬事日報社	2018
---	--------------------	--------------------------------	-------	------

・成績評価方法

講義後の確認小テスト（主に記述式）（約 60%）に加え、外部講師による講演の感想レポート、選択式レポート課題、SGD への取り組みと態度（15%、20%、5% 合計約 40%）の合計で総合的に評価する。

・特記事項・その他

薬学部カリキュラムの改訂に伴い、「医療倫理学」のみならず「ヒューマニズム」も学修する科目となっている。ナラティブメディスン（物語に基づく医療）、医療過誤、東日本大震災の心のケア、死と生を考えるアクティブラーニングの内容を追加、充実させている。

ほぼ毎回、成績評価に関わる確認小テストや感想文が出されるので、欠席した場合には担当教員もしくは科目コーディネーターまで、すぐに自ら連絡をとること。

選択式レポートの具体的な課題については、ガイダンス時に開示する。選択式レポート課題に関する連絡や提出は moodle を介して行う。またレポート課題のフィードバックや総評は、発表会などにおいて行う。確認小テストのフィードバックは、moodle において行う。

授業に対する事前・事後学修の時間はそれぞれ 45 分、1 時間 15 分を要する。また、夏休みに提出する選択式レポート課題には、関連資料の収集や解読、レポートの執筆等合わせて約 25 時間を要する。早めに、選択式レポート課題についての準備を進めておくこと。

事後学修は、確認小テストや講義プリントの復習や振り返りを行うこと。または、講演者への感想文や選択式レポート課題に取り組むこと。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	コンピューター	1	講義資料の映写、プレゼンテーション